

超臨界流体部会 第8回部会(幹事会)議事録

日時:平成17年3月22日(火)

18:00~20:00

場所:名古屋ガーデンパレス

資料1 H16年度 事業報告

- ・平成16年度主催事業

H16.4.2 超臨界流体部会 第6回部会 (大阪 ホテル南海)

- 1.平成16年度活動計画(超臨界イノベーション・コンソーシアム受託事項 APCChE 他)
- 2.平成16年度部会収支予算案
- 3.部会プロジェクト発足について

参加人数 48名

H16.8.9~8.10 超臨界流体部会第3回サマースクール (大阪ガス 奥池ロッジ)

H16.8.9

超臨界二酸化炭素を用いた環境調和型の有機化学反応

宇都宮大学工学

葭田 真昭氏

超臨界二酸化炭素中におけるバイオプロセス

龍谷大学理工学部

松田 知子氏

超臨界流体を用いた射出発泡成形技術の実際

出光石油株式会社

阿江 晴彦氏

H16.8.10

超臨界流体中における熱現象

産業技術総合研究所 エネルギー利用研究部門 中納 暁洋氏

超臨界水中での水素製造技術

信州大学工学部

富安 博氏

超臨界水反応による廃棄物リサイクル技術

近畿環境興産株式会社

山西 一誠氏

参加人数 27名

H16.10.17 ~ 10.18 APCChE

(北九州 国際会議場)

招待講演者(Keynote Lecturer)

Dr. Francois CANSELL

(CNRS Research Director of Institut de Chimie de la Matiere Condensee de Bordeaux, FRANCE)

“Nano-materials using supercritical fluids”

Prof. Motonobu GOTO (Kumamoto University, JAPAN)

“Development of SCF Processes for Hazardous Solid Waste Treatment”

Prof. Ki-Pung YOO (Sogang University, Korea)

“Commercial Applications of SCF Technology in Korea on SFE, SFD, SCWO, SCORR and Nano-Materials”

オーラル発表者の数:18名(内日本16名、海外2名(Malaysia, Thailand)、学生6名)

ポスター発表の数:36名(内日本26名、海外10名(China, France, Korea, Taiwan))

SCF セッションの日程 シンポジウム 03; 超臨界流体
オーラル : 18日(月) 13:30 ~ 17:00
19日(火) 13:30 ~ 17:00
ポスター : 18日(月) 17:00 ~ 18:30
20日(水) 17:00 ~ 18:30

学生プレゼンテーション賞 4件(ポスター)および論文賞 3件の審査

H16.10.18 超臨界流体部会 第7回部会 (ステーションホテル小倉)

1. 部会プロジェクト設置要領
2. 部会プロジェクトの提案
3. APCChEの概要と表彰の審査方法
4. 役員人事(部会長交替)
5. 参与制の設置(見送りとする)

参加人数 42名

H17.3 超臨界流体部会活動成果集(ワーキンググループ活動報告書No.4) 発行(平成16年12月付)

・共催・協賛事業

H16.1.22 注目されるガスハイドレートの物性とその利用 (日本大学理工学部1号館)

—CO₂, 天然ガス、水素のガスハイドレート—

主催 化学工学会基礎物性部会

共催 分離技術会

協賛 化学工学会超臨界流体部会

1. 「ガスハイドレートとは」 (東京都立大学) 長浜 邦雄

2. 「ガスハイドレートの相平衡と物性および分離への応用」
(産業技術総合研究所) 清野文雄、山本佳孝、山本章弘

3. 「ガスハイドレートの生成・分解過程の分子シミュレーション」
(東京都立大学) 太田 正広

4. 「Stable Low-Pressure Hydrogen Clusters Stored in a Binary Clathrate Hydrate」
(Delft工科大学) C.J.Peters

・受託事業

NEDO-JCII プロジェクトのデータベース化の担当(アイテル技術サービス株式会社)

1: 「研究動向調査」

2: 「高温高圧水系・超臨界 CO₂ + ポリマー系の物性推算法のプログラム評価」

前者の調査は、各 WG の活動報告書を資料提供

プログラム評価は (MTMS グループの九州大学荒井研、東北大学猪股研)

再委託形式で資料作成・提出完了した。(部会として管理費 10%を計上)

資料2 平成16年度会員移動(平成16年10月10日より)

会員数 296名(平成17年3月11日現在)

会員内訳	名誉会員	2名	法人個人会員	9名		
	個人会員	192名	賛助会員	12社28名		
	個人特別会員	24名	法人特別会員	4社 8名	学生会員	33名

- * 以前からのメンバーで未登録者は早めの登録をお願いします。
一定期間経過後、未登録者で以前からの部会メンバーは事務局から登録する予定。

資料3 平成16年度部会収支決算報告

省略

資料4 部会役員について

超臨界流体部会平成17年・18年役員

部会長 栃木勝己(日大)

副部会長 (3名:産官学)

福里隆一(SCFテクノリンク) 生島 豊(産総研) 佐古 猛(静岡大)

幹事(20名)

岩井芳夫(九大)	陶 究(東北大)	船造俊孝(中央大)
大島義人(東大)	鈴木 明(産総研)	古屋 武(産総研)
大竹勝人(産総研)	R.L.スミス(東北大)	松田知子(東工大)
川崎慎一郎(オルガノ)	滝島繁樹(広大)	吉田絵里(豊橋技科大)
後藤元信(熊大)	田村和弘(金沢大)	葭田真昭(宇都宮大)
佐藤善之(東北大)	辻 智也(日大)	若山博昭(トヨタ中研)
宍倉昭弘(出光)	日秋俊彦(日大)	

WG(まとめ役 *正、**副)

(1) 基礎物性	岩井*、日秋**、陶、辻
(2) 分離・抽出	後藤*、田村**、古屋、佐藤
(3) 反応・物質変換	船造*、大島**、葭田、松田
(4) 材料製造	滝島*、若山**、宍倉、吉田
(5) 単位操作	鈴木*、大竹**、スミス、川崎

監事(2名)

荒井 康彦 松井 茂

事務局(5名)

猪股 宏(学会連絡担当)	佐藤郁子
辻智也	根元秀実
増田善雄	

資料5 活動計画

1) 第7回世界化学工学会議(7th World Congress of Chemical Engineering)

日時:2005年7月10日(日)~14日(木)

場所:グラスゴー(スコットランド)

期日:アブストラクト締切日:2004年7月1日(木)

論文の締切日：2004年12月1日（水）
アクセプトの通知：2005年3月16日（水）
WCCE7開催：2005年7月10日（日）

詳細情報の入手：<http://www.chemengcongress2005.com>より情報を得ることができます。物性関係のアブストラクトは7テーマ中の1つである「Advancing the Fundamentals」（Modelling、Thermodynamicsなどがある）に申し込むことができます。

2) 7th international Symposium on Supercritical Fluids

Rosen Centre Hotel, Orlando Florida USA

May 1-4, 2005

Important Deadlines:

November 1, 2004.....Submission of abstracts

February 1, 2005.....Notification of acceptance

E-mail : craven@issf2005.org

Home page : www.issf2005.org

3) 2005 環太平洋国際化学会議

<http://www.chemistry.or.jp/learned-society/pacificchem/pacificchem2005top.html>

主催：日本化学会・アメリカ化学会・カナダ化学会・オーストラリア化学会・

ニュージーランド化学会・韓国化学会

会期：平成 17 年（2005 年）12 月 15 日（木）～20 日（火）

会場：ホノルル，ハワイ（シェラトンワイキキ，ヒルトンハワイアンビレッジ，他ワイキキ周辺ホテル）参加希望者は、仮の題目と参加の旨をなるべく早くスミス氏（東北大学，smith@scf.che.tohoku.ac.jp）まで e-mail にて連絡してください。その際、メールのサブジェクトを“PACHICHEM2005”としてください。

4) 第25回 INCHEM TOKYO 2005 プラントショー

会期：2005年11月15日（火）～18日（金） 10:00～17:00（最終日は16:30まで）

会場：東京ビッグサイト 有明・東京国際展示場（東展示棟）

主催：社団法人 化学工学会

5) 第4回サマースクール

担当 鈴木 明(産総研)

詳細未定

6) 超臨界抽出に関する中国との連携

SCF Techno-Link 福里

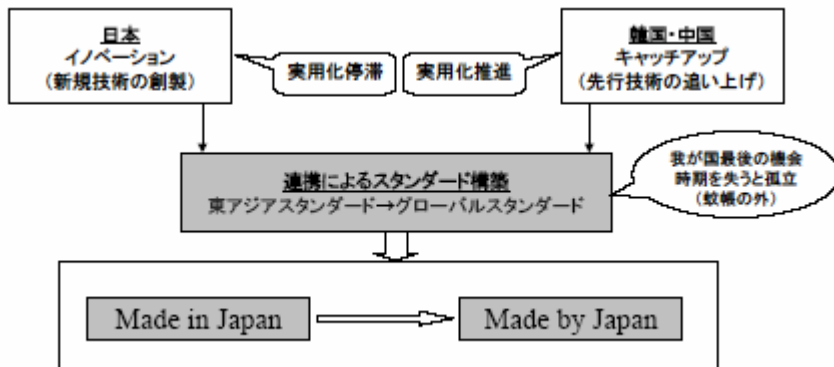
1. 目的および背景

- ・ 中国における漢方近代化の国家戦略：製造プロセスの近代化（国際的競争力の確保）

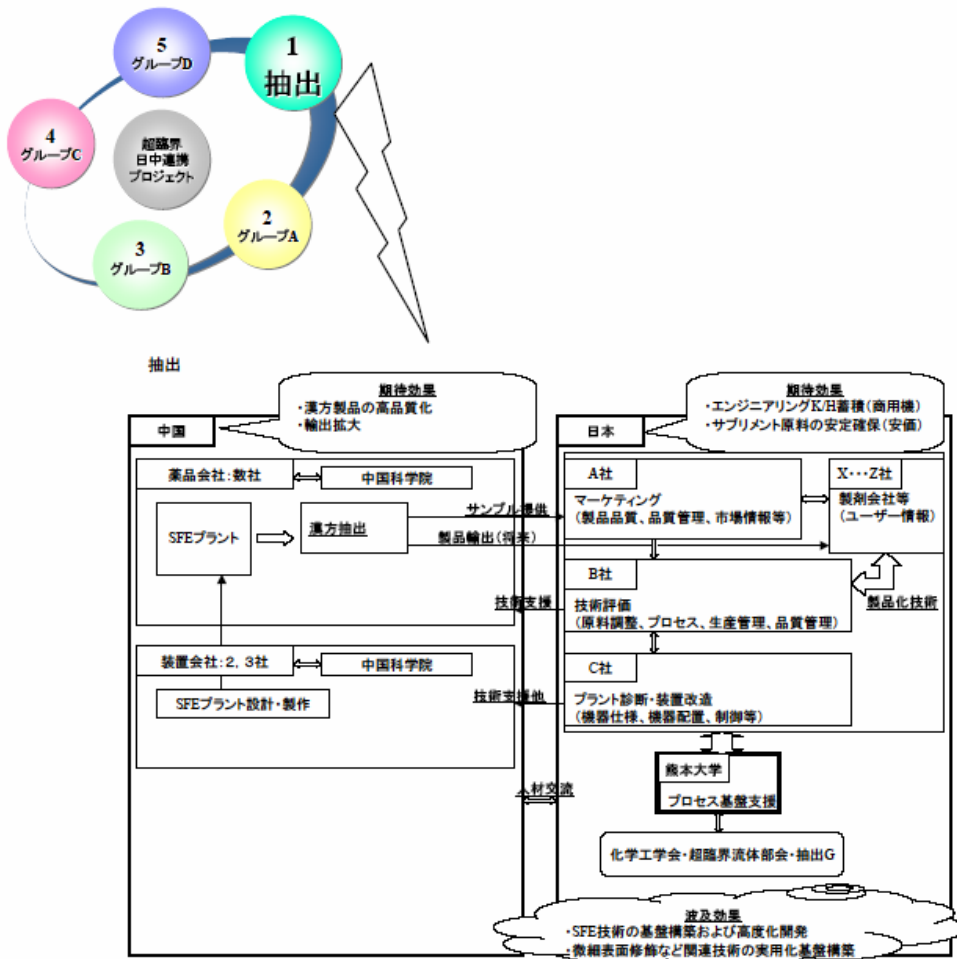
第9次5ヶ年計画、第10次5ヶ年計画 第11次5ヶ年計画

- ・ 我が国実用化の停滞、エンジニアリングレベルの低下への対応（実用化促進貢献）

2. 連携（案）



2. 連携（案）



資料6 第37回秋季大会

開催期間 2005年9月15日(木) ~ 17日(土) (3日間)

開催場所 主会場：岡山大学津島キャンパス (〒700-8530 岡山市津島中一丁目1番1号)

特別講演会場 : 岡山大学50周年記念館 (津島キャンパス内)

懇親会会場 : 岡山ロイヤルホテル (9月16日)

本年会の特徴 今回の秋季大会は部会シンポジウムの集合体としての大会であるため、募集する講演はシンポジウムでの講演のみです。

講演申込と講演要旨(PDFファイル)はホームページからの受付を基本とします。 プログラムは冊子体としますが、要旨集はCD-ROMのみとします。

学会参加申込やホテル予約を全てホームページで行います。これにより、参加費のカード決済も可能となります。

第37回秋季大会シンポジウムについて オーガナイザ 古屋 武(産総研)

第37回秋季大会のシンポジウム開催にあたっては、日秋先生(日本大学)、若山様(豊田中研)、古屋の3名が超臨界流体部会のオーガナイザとして企画立案を行いました。シンポジウム内容につきましては、オーガナイザで作成した案を荒井部会長・栃木次期部会長にご検討いただきました。その結果、下記のような内容で基礎物性部会との共催シンポジウムとして開催することとし、化学工学会に申請いたしました。

シンポジウムタイトル:

超臨界流体の物性と高度利用(Supercritical Fluids Technology Revisited-)

シンポジウムオーガナイザ:

基礎物性部会:佐藤善之・辻智也,

超臨界流体部会:日秋俊彦・若山博昭・古屋 武

シンポジウム概要:

超臨界流体は温度や圧力の操作変数により、溶媒物性を制御可能なことが特徴である。超臨界流体を利用したプロセスでは、対象とする系の物性を把握し溶媒物性を制御する事で目的とするプロセスを開発することとなる。本シンポジウムは基礎物性部会との共催により、超臨界流体の物性、物性を巧みに利用した分離・反応・材料製造といった高度利用に関する幅広い研究発表と討論を行なう。

担当部会名 : 基礎物性部会 ・ 超臨界流体部会 (共催)

展望講演の数 : 3件

講演者の氏名 ・ 勤務先

1) 荒井 正彦 先生 (予定)

北海道大学大学院 工学研究科物質工学専攻

- 2) 片田 直樹 様 (内諾済み)
花王 (株) 加工・プロセス 開発研究所
- 3) 大竹 勝人 様 (内諾済み)
独立行政法人 産業技術総合研究所 ナノテクノロジー研究部門

化学工学会には、発表見込み件数が50～80件程度、希望会場収容人数が100名程度として申請を行っておりますので、部会員の皆様のご発表・ご参加をお願いいたします。

資料7 平成17年度部会収支予算案

省略